

市の財政状況を公表します

歳入総額 161億5,079万円

( )内は前年度比

自主財源 52億1,242万円	■市税	38億5,946万円 (1.2%減)
	■その他	13億5,296万円 (19.1%減)
依存財源 109億3,837万円	■地方交付税	49億1,270万円 (2.6%増)
	■国庫支出金	20億9,199万円 (0.1%増)
	■市債	20億3,330万円 (18.9%減)
	■県支出金	9億6,039万円 (15.8%増)
	■その他	10億5,279万円 (36.4%増)

歳入の用語解説

- ▼市税  
市民や市内企業から納付されるお金
- ▼地方交付税  
自治体間の財政力の格差を解消するために、国から交付されるお金
- ▼国庫・県支出金  
市が行う特定の事業の財源として、国・県から交付されるお金
- ▼市債  
国や金融機関から長期にわたって借りるお金
- ▼自主財源  
市税など、市が自主的に収入できるお金
- ▼依存財源  
収入の中で、国や県などから交付されるお金

一般会計決算

◆前年度と比較して歳入、歳出ともに減額

■歳入 地方消費税交付金や地方交付税が増加したものの、給食センター建設事業などの終了による普通建設事業費の減少に伴い市債や繰入金が大きく減少しました。このため、26年度決算と比べると2億9,490万円の減額(1.8%減)になり、総額161億5,079万円となりました。

■歳出 国営両総土改良事業負担金の支出の影響などにより農林水産業費が増加しました。しかしながら、給食センター建設事業などの終了に伴い教育費が大きく減少したため、26年度決算と比べると2億7,694万円の減額(1.8%減)になり、総額154億5,846万円となりました。

市の借金(市債)

◆前年度末から6億4千万円増加。市債残高は182億3千万円に

市債は家計でいうところの借金に当たります。市債の残高は、27年度末現在で182億3,302万円(一般会計合計が172億266万円、病院事業会計が10億3,036万円)で、26年度末から6億4,069万円増加しました。

残高のうち最も多いのは、臨時財政対策債(69億4,274万円)で約4割を占めますが、元利償還金の全額が国から補てんされるため、実質的な市の負担はありません。また、その他の市債についても、その種類によって国からの補てんがあるため、残高約182億円のうちの市の実質的な負担率は3割程度となります。

◆市債残高と実質負担率

	市債残高	実質負担率
一般会計		
臨時財政対策債	69億4,274万円	0.0%
合併特例債	53億6,933万円	30.0%
その他	48億9,059万円	54.7%
小計	172億266万円	24.9%
病院事業会計 病院事業債	10億3,036万円	92.9%
合計	182億3,302万円	28.8%

※合計などは四捨五入の関係で一致しないことがあります。

平成27年度の各会計決算がまとまり、9月定例市議会で認定されました。一般会計は、歳入総額が161億5,079万円、歳出総額が154億5,846万円。翌年度に繰り越す財源を除く実質収支額は6億5,116万円の赤字となりました。



今年3月に竣工した「そうさ記念公園」

会計別決算額

一般会計	
歳入	161億5,079万円
歳出	154億5,846万円
差引	6億9,233万円
国民健康保険特別会計	
歳入	66億8,208万円
歳出	62億7,943万円
差引	4億 265万円
後期高齢者医療特別会計	
歳入	3億7,253万円
歳出	3億7,043万円
差引	210万円
介護保険特別会計	
歳入	31億5,868万円
歳出	30億4,970万円
差引	1億 898万円
病院事業会計	
収益	24億 75万円
費用	26億6,918万円
差引	▲2億6,843万円

歳出総額 154億5,846万円

( )内は前年度比

歳出の用語解説

- ▼民生費  
児童、高齢者、障がい者福祉などに係る経費
- ▼教育費  
小中学校など教育行政に係る経費
- ▼総務費  
事務経費や防災などに係る経費
- ▼衛生費  
市民の健康づくり、ごみ処理などに係る経費
- ▼公債費  
市債の返済に係る経費
- ▼土木費  
道路や公園などの整備や管理に係る経費
- ▼農林水産業費  
農林水産業の振興に係る経費
- ▼消防費  
常備消防や消防団に係る経費

■民生費	48億7,678万円 (1.3%増)
■教育費	24億5,621万円 (33.4%減)
■総務費	18億4,920万円 (1.3%減)
■衛生費	15億3,781万円 (10.5%増)
■公債費	14億1,648万円 (7.4%増)
■土木費	12億1,997万円 (13.2%増)
■農林水産業費	7億1,223万円 (83.8%増)
■消防費	6億4,620万円 (増減なし)
■その他	7億4,358万円 (37.9%増)

市の貯金（基金）

◆前年度から3,871万円増加。基金残高は64億7千万円に

基金は家計でいうところの貯金に当たり、財政調整基金の他、使い道が決められている地域振興基金など、15の基金があります。

27年度末の基金残高は、年度中に地域振興基金などを取

り崩して観光拠点整備事業などに使用したものの、財政調整基金が3億1,987万円増加して30億2,303万円となったことなどで、26年度末から3,871万円増加し、合計は64億7,233万円となりました。

健全化判断比率・資金不足比率

◆健全化判断比率、資金不足比率ともに健全段階

健全化判断比率と資金不足比率は、自治体の財政状況を判断するための指標です。

健全化判断比率は、「健全段階」「早期健全化段階」「財政再生段階」の三つの段階に区分され、早期健全化段階や財政再生段階になった場合には、それぞれの段階に応じた財

政の建て直しを図ることとなります。また、資金不足比率は、公営企業の事業規模に対する資金不足額の割合を示すものです。

27年度決算における本市の健全化判断比率と資金不足比率は、いずれも基準を下回っていて健全段階にあります。

◆健全化判断比率

	実質赤字比率	連結実質赤字比率	実質公債費比率	将来負担比率
匝瑳市数値	赤字なし	赤字なし	5.3%	33.6%
早期健全化基準	13.36%	18.36%	25.0%	350.0%
財政再生基準	20.0%	30.0%	35.0%	設定なし

◆資金不足比率

	資金不足比率
病院事業会計	資金不足なし
経営健全化基準	20.0%

用語説明

実質赤字比率…財政規模に対する一般会計の赤字割合  
連結実質赤字比率…財政規模に対する全ての会計の赤字割合

実質公債費比率…財政規模に対する借金返済額の割合  
将来負担比率…財政規模に対する負債の割合

※6、7ページに関する問い合わせは財政課財政班 ☎73-0085へ